

第1回 加西市スマートシティ推進会議 会議録

開催日時	令和6年8月27日（火）午後2時00分～4時10分
開催場所	加西市役所 5階大会議室

出席委員の氏名			
岡田 美佳	金田 敏秀	木南 晴太	田畑 豊史
西尾 信彦	水田 善久	宮本 博文	
欠席委員の氏名			
高井 淳匡	西村 雅吉	藤中 亮太	蓬莱 眞子

出席した事務局職員の氏名及びその職名	
深江 克尚	加西市 政策部長
大賀 暁	加西市 C I O 補佐官
山岡 和宏	加西市 政策部情報課 課長
伊藤 陽子	加西市 政策部情報課 主幹
馬渡 隆行	加西市 政策部情報課 係長
小山 映	加西市 政策部政策課 まちづくり推進員
（事務局補助） 電通西日本	

会議概要
1 議事 （1）加西市のスマートシティ推進概要 （2）会議の進め方 （3）意見交換
2 資料 会議次第、資料1、資料2
3 会議の経過 別紙「第1回加西市スマートシティ推進会議の経過」のとおり

別紙 第1回加西市スマートシティ推進会議の経過

発言者	会議の経過／発言内容
政策部長	開会 1 挨拶 ＜加西市政策部長あいさつ＞ お忙しい中、第1回加西市スマートシティ推進会議にご参集いただきありがとうございます。この会議は、加西市 DX 推進計画に基づき、人が中心の持続可能なまちの実現を目指し DX の活用により、地域の課題解決と活性化を図り、地域で役立つことをしていきたい。 防災アプリは1万3～4千人の利用となっているが、その普及にあたって誰一人取り残さないようにするため高齢者等への対応など、現場の苦労の大変さを痛感している。地域の課題解決と活性化のために、多様な分野から忌憚なきご意見をいただくようお願い申し上げます。
事務局	2 委員の紹介 出席委員の紹介の後、3名の欠席委員からのコメントを紹介。
事務局	3 会長選出 事務局より推薦し、委員の承認により、西尾委員を会長に決定。
会長	＜会長あいさつ＞ スマートシティのスマートとは、必ずしも DX やデジタルを使わないといけなことではない。デジタル先行ではなく、課題ファーストでまず課題をきちんと見つけ取り組み、やってきたことをそのまま継続するのではなく、ちゃんと課題を見つけて総括して、先に進んでいくようなしっかりした進め方をこれまでいくつかのまちでやってきた。大阪や加古川市でも一緒に進めてきたので、加西市ともぜひ良い関係で皆様とスマートシティ推進ができればよいと考えている。
事務局	4 議事 （1）加西市のスマートシティ推進概要（資料1） スマートシティ推進会議の目的と計画について説明。
会長	今回のデジタル田園都市構想として、データ連携基盤の基本となるものが形成されてきているということだが、その連携状況はどうなっているか。
事務局	この4月から既に稼働しており、ねっぴ～Payを中心にサービス連携したシステムとなっている。
会長	庁内のデータをオープンデータ化して活用するという部分も大切である。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
事務局	資料1の22ページにあるようにオープンデータとパーソナルデータの両方の取り扱いがある。今後、オープンデータは外部に出て活用される一方で、個人情報情報は閉じた場で利用するという考え方である。
会長	どう課題解決のためにデータ連携の部分を使っていくか、また協議会をどのように立ち上げていくのかがテーマと理解する。
委員	6つのサービスがデータ連携基盤に結びついているが、これらのアプリがどのようなデータを集めているか、またその元々の活用目的はどんなことか。
事務局	資料の22ページ下の方にあるように、健幸アプリでは歩数などの健康に関するデータや、地域通貨の決済データを扱っている
委員	ねっぴ〜Pay は加西市内の経済活動においてどれくらいの割合を占めているのか。
事務局	ねっぴ〜Pay の決済額は4.7億円である。 (参考)R3 経済センサスで小売売上額は376億円なので約1.3%
委員	教育分野でのデータ連携基盤の活用方向として、単なる〇×や得点の結果データではなく、その過程をデータとして記録し活用することをイメージしている。生活が便利になることとは少し異なるが、生活日記といった教育のパーソナルデータ活用策を構想している。
会長	多くのサービスアプリがあるが、しっかり検証した上で、展開の方向を考えていく必要がある。
事務局	ねっぴ〜Pay の拡大にあたり、地域でお金を回していくためには企業間決済が課題となっている。
会長	健幸アプリはどこまでいったら目標達成であるとか、具体的な目標はあるのか。
事務局	多可町と比べ利用者数が伸び悩んでいるが、健幸アプリのデータ活用による医療費の抑制のほか、健康指導にも使えないかと考えている。
会長	健幸アプリを使っている人は、健康な人ばかりかもしれない。
事務局	国の調査では、健康寿命向上と医療費抑制につながっているとの報告がある。
会長	民間のサービスに加入しない人にリーチできるのであれば公がやる意味がある。
事務局	ポイントをインセンティブとして付与しているのは不健康層の参加を促している。ポイントの財源は加西市が出しているため、市内でポイントを循環させる狙いもある。
委員	今、民間からどのようなサービスの要望がきているのか知りたい。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
委員	店舗としては、ねっぴ〜Pay を使用されている市民の属性情報が欲しいと思われる。
委員	現状、利用者分析データについて商工会議所へ依頼してくる店舗はまだ少ない。まずは情報リテラシー格差があるので、ねっぴ〜Pay をどのようにしてデジタル化の恩恵を使えない人に広げていくかが大事。現在はねっぴ〜商品券として配布しているが、次年度以降はデジタル化する方向にある。その上でデータをしっかりと店舗へフィードバックすることが必要で、特に個人商店ではデータをいかに活用していくかが課題である。今後商店連合会をあげて商工会議所と連携しながらアプローチしていきたい。
会長	（２）会議の進め方（資料２） 2 つ目の議題「本会議の進め方」について、事務局の説明に基づき質疑をお願いしたい。
事務局	➤ 資料２に基づき、令和６年度の計画について説明。 会議は４回開催予定。８月の第１回は現状把握、１０月の第２回は課題抽出と方向性の確認、１２月の第３回は推進組織の在り方検討、２月の第４回は提案のまとめというスケジュールを見込んでいる。 ➤ スマートシティ推進会議の運営要領について説明。 ①第２条のオンライン出席者の対応、②第７条第４項の会議の映像・音声の公開範囲、③第８条の会議間のオンライン意見交換の仕組み導入に関して委員の意見を求める。
会長	基本的にこの会議は次年度以降の協議会の準備会の位置付けで、協議会が立ち上げられるような検討の構成で計４回と理解する。
委員	立ち上げようとしている協議会はどのようなものをイメージしているか。
事務局	事業者等の会員を募ってつくることを想定している。
事務局	協議会組織は産官学民金連携がまさに重要であり、幅を広げていくために研究機関や金融機関の参加も必要である。数よりも質であり、加西が持続的な街として発展していくために何か生み出していく人を集めたい。
委員	協議会設立の目的は、加西市のビジョンを実現するために必要な推進体制を整えることであり、会議を重ねるごとに具体的な議論が進むことを期待する。
事務局	４回の会議だけでは議論が深まらなかったり、課題が沸き上がるばかりでおさまらなかったりする可能性があるため、別途コミュニケーションの場が必要だと考えており、オンライン会議の導入についてのご意見を伺いたい。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
委員	協議会の議論を進める上で、市民や事業者の意見が共有されることが重要である。形だけの協議会にならないようにするため、市民も企業も市役所も必要だという思いのもとに組織をつくることが大切である。具体的には各分野でやりたい人たちが集まって立ち上げるプロジェクトやグループの活動があって、本当に実のある取組になると面白い。そのためには広く市民の声を集める仕掛けが必要である。
委員	各委員が選ばれた背景には、各自のバックヤードを活かした意見を集める狙いがあると思う。各委員がそれぞれのバックヤードから意見を集約することで、スマートシティ構想に関連するビジネスへのアプローチとして何ができるのか、やりたいのかわかる。
事務局	地域課題が多岐にわたるうえ、解決法はデジタルによるものとそうでないものがあり、できるところから手掛けていくべきだと考える。
委員	デジタルを使うとどうなるのかというイメージがわからない状態で人に説いても仕方がないので、現状を紐解いていく必要がある。各委員のバックヤードに対してのなにがしかのアクションがあってもよい。
委員	課題は理想と現実のギャップで提起されるものであり、課題把握のためには加西市のスマートシティの理想像をブレイクダウンして本当に市民の目指す夢になっているかどうか確認しておくべき。こうなりたいというものがあってはじめてこのままではいけないという課題が出てくる。そのために、要望型の課題集めではなく、どんな地域をつくりたいか、将来どうなっていてほしいか、そのような話し合いをしていく中で取り組む課題を探していくべきだと思う。 そのため、一気に器を広げるのは得策ではなく、例えば農業を徹底的にスマート化していくにはどうしたらいいか、スマート農業の聖地にするにはどうしたらいいか、そうやってコンパクトに資源を集中していくのもいいかもしれない。
事務局	ご指摘の通り、その理想と現実のギャップの中で何から着手すべきなのかと悩んでおり、そこを目指すうえでもまずは現状の課題がスタート点であり、小さくても解決していくことに努めたい。 また、本日欠席の委員はスマート農業を積極的に取り組まれているので次回会議でのご発言に期待したい。 加西市には、次世代園芸拠点のネクストファームや県の農業大学校、神戸大学の研究農場もある。
委員	加西市はドローン農業や次世代園芸のイメージがあるし、県の農林水産技術総合センターや農業大学校、神戸大学の農場を有効に使える環境があるため、スマート農業に注力すると盛り上がるように感じる。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
会長	5つのサービスがデータ連携基盤上にあるのですでに課題はあると思われる。それ以外でも課題は考えられる。
委員	教育をデータ連携基盤に組み合わせて入れたいと思う。
事務局	教育分野においても、行政と連携しながら推進するべきと考える。
委員	協議会として来年度以降に向けた計画を持つべきであり、興味を持つ者が自発的に参加できる体制が重要となる。協議会が窓口となってオープンに加西のデータを使えるようにすべきである。
会長	会議の運営に関して、オンライン参加、動画公開や会議間のコミュニケーションの方法についての意見を伺いたい。
委員全員	(公開等について異論なし)
委員	8条については、個別のセッションとするのか全体の会議のセッションとするか、また議事録の対象とするのか気になる。
事務局	個別セッションでは議事録は不要だが、全体セッションとする場合はサマリーを作るなどで全体共有は必要。オンラインコミュニケーションでは、読む人と読まない人が出てくるため、ルール設定が必要である。
会長	個別議論を全体議論の場に出した時は、議事録に残るということでよいのではないかと考えている。 今後のコミュニケーションツールとしてチャットツールを市から提供し、参加者全員がアクセスできるようにし、必要に応じて他の選択肢も検討することとする。 チーム内の意見交換を促すために、事務局が意見のあると思われる人を指名するなど、議論の種をまく仕組みも必要と思われる。
会長	(3) 意見交換 全体を通しての意見、質問等をお願いしたい。
委員	スマートシティという言葉は難しいという意見が多く、昨年兵庫県でもスマートシティ推進事業を行ったが、なかなか伝わらない部分があった。今年度は「スマートシティ」を「地域 DX」と言い換えている。人を巻き込むためにはわかりやすい言葉を使っていく必要がある。住民にとっては、利便性の向上だけがゴールではない。利便性を高めた後に何があるかを意識する必要がある。 デジタル庁の村上統括官が言うように、人口減少に伴いサービス供給の在り方も変わってくる。これまでの供給者中心の仕組みから、需要者に合わせた供給への転換が求められる。バスの運行を例にとっても、これまでは決まった時間に走っていたが、これからは個々の需要に応じて運行するシステムが必要。これがデジタル技術を活用した DX の意味だろう。サービスの需要を捕まえるためにデジタルを広める必要がある。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
	窓口を DX して終わってはいけないと思う。この地域において暮らしやすくなるようなサービスを検討する際に、市内の事業者と連携して取り組みを進めるときに、それを推進するために協議会という器が必要になると考える。
会長	窓口 DX はデジタルデバйд解消のためにインターフェースをよくすることが目的であり、需要者にあわせていくためには別の議論になる。
委員	今回会議に参加するにあたり、兵庫県のスマートシティ検討会の資料を見て、加西市はかなり進んでいると感じた。他の自治体と比べ、住民が自然にサービスを受け入れているように見える。安全面も含めて一般の方と合意形成ができれば、より推進していくのではないかと感じる。
事務局	ねっぴ～Pay の前段階では PayPay の取り組みがあり、キャッシュレス決済が普及した。
委員	PayPay の場合は取引情報がわからなかったため、地域通貨ねっぴ～Pay が立ち上がることにより、属性を含めてすべてわかるようになった。ポイント還元キャンペーンをしても、そのポイントが市外で使われるのではなく、市内で流通するような地域通貨にしていくという意図が市にあり、それには同感した。 これまでも市と市内業者で連携が取れていたもので、今後も民間の知恵を受けながら取り組みをしていくことで、自走できる組織になりそうな期待感はある。
会長	他の自治体と比べてねっぴ～Pay が立ち上がっているというのは、市の特徴であり重要だと思う。ねっぴ～Pay に力を入れていくということがデータ連携基盤の根幹サービスという意味でも重要だと感じる。 どのような人たちがねっぴ～Pay を使用しているのか。
事務局	高齢者もねっぴ～Pay を使用している。
委員	高齢者には紙媒体の方が適していると考えているが、ねっぴ～Pay に移行するほうがよい。移行に際しては丁寧に説明していく必要はある。 紙媒体の場合は大型店での利用が多く、地域経済の還元が市外に流れることが問題と認識している。この点を改善するために、デジタルを活用することで還元率を市内外事業者ごとに調整することができるのではないかと。
会長	特定のターゲットに絞ったサービスを提供することで、効果を高めることができる。高齢者向けのサービスや、特定の地域でのみ使えるサービスなどが考えられる。
事務局	農業の話も出たが、スマート農業は万能ではない。特に地元での農業復興には限界があり、どの自治会でもできるわけではないが、玉野は熱心にやっている。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
	加西市の農業は他のまちと比べてスマート農業の導入が進んでいるが、地元での対応が難しい部分もある。特に、小さな集落ではスマート農業だけでなく、移住者支援も必要となってくる。
会長	農業と移住者支援を組み合わせることで、地域の活性化が期待できる。また、地元企業と連携して新しい取り組みを進めることも同様だが、農業以外にもモノづくりの産業があると聞くが連携可能な企業についてはどうか。
委員	電機メーカーがレタス、イチゴなどで野菜工場を行なっている。他にも観光農業分野で検討している事業者がある。
委員	教育分野においては、加西市はユニークなところを狙っており、非認知能力の育成に取り組んでいる。挑戦・協働・創造ができる人間を育てるということを目標に掲げており、挑戦や協働は何点というわけにはいかない。例えば、タブレットを活用した生活ノートの記録や家庭学習のデータなど学校内の授業以外のデータを収集・活用し、子どもの成長を見える化していく手段として非常に有効だと考えている。
事務局	熱中症対策をするセンサ付きのウェアラブルデバイスを提供するベンチャーがある。この企業と教育と連携できると新しい教育を実現できると考えマッチングを進めている。足りないところを組み合わせでどういった方向性に進めれば良いのかということを経営化できればプロジェクト化などに進めるということが期待できる。 非認知能力の育成は、子どもの成長だけでなく、大人にも応用することができると考えており、それらを通して将来の地域全体の発展にも繋がる。デバイスなどを通して農業 DX が教育分野につながるなども期待できるのではと考えられ、これも地域 DX の取組の一環となりえる。
委員	総務省の地域 DX 推進体制構築支援事業を活用し、県で6つの市町と連携して推進しており、加西市はその一つ。国の補助金を活用して民間専門人材が現地に常駐する。今回参加の委員もその一人で、非認知能力の指標開発や教職員の働き方改革を教育委員会とやりたいと考えている。また、フルクラウド統合型校務支援システムの導入にも教育分野の専門家としても参画してもらっている。
委員	加西市には製造業が多くあるが、人手不足、生産性向上、事業承継、設備投資などの課題がある。DX も含めてそれら課題解決に向けてこの会議体がどのようにかわりがあるのか気にしている。
事務局	小さな企業のホームページがないなどから始まり、どうやって DX していいのかわからないという事業者の支援も産業課と連携して必要と考えている。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
委員	兵庫テックのようなものが求められていると思うが、ねっぴ〜Payなどを活用した有償インターンなど中長期でみたコミュニティーリクルーティングでの新しい支援も考えられる。
事務局	推進会議を通して様々な企業とコミュニケーションをとって、中小企業とのマッチングをするなども可能と考える。
委員	事業者同士のコミュニティと考えると加西市だけに閉じると小さいので、マッチング先の企業は北播磨、兵庫県全体、さらにそれを越えた枠でもよいと考える。
事務局	IT 企業の多くは首都圏にあり、他の 1 割は日本中に分散しているため、首都圏の企業とつながらざるを得ない。 リクルーティングに関しては、高専の先生と関係を持っておくと、卒業生の転職ニーズを獲得することができたりする。
会長	本日の議論を通じて、スマートシティや地域 DX に関する多くの課題が浮き彫りになった。特に、地域全体での連携が求められることが再確認されたので、今後、委員間で議論を立ち上げてほしい。
委員	福祉分野においては、加西市内の後期高齢者 8,000 名が今後どのように幸せに過ごしていけるのか、加西市が推進しているアプリなどを活用して豊かに過ごせるのかということに期待しているところである。地域住民だけで見守ることは難しくなっている。 小学生の STEAM 教育の中で出た自由な時間を使えるマッチングのアイデアモデルなどは、高齢者施策に活用の可能性がある。 高齢者支援の取り組みを進めるために、事業者の専門職のみでケアできるというのは厳しい時代となっており、人手不足への対応のためにデジタルが活用されていくことを期待している。
事務局	5 その他 次回は 10 月 28 日または 30 日を予定し、後日正式に通知する。
CIO 補佐官	閉会 ＜加西市 CIO 補佐官あいさつ＞ 本日の活発な議論に感謝申し上げる。 意見を集約すると、これまでできていなかった課題の確認だけでなく、加西市はどういうスマートシティを目指し、どんな未来の世界を創りたいかが全ての軸ということだと思う。高齢者の未来、小学生の将来など、まずはそこを徹底的にこの推進会議で議論して組み立てたい。 皆様の様々な視点からの意見を聞き、加西市民の考えを理解したうえでチャレンジしていきたいので、よろしくお願いします。